

局区	課題番号	課題の概要	取組みの進捗状況(令和6年10月30日時点)
保健 福祉	B(6)	<p><u>市民が安心して医療を受けられる政策医療体制の再構築</u></p> <p>・市全体の医療のあり方や官民の役割等について、医療関係者等で構成する会議で議論・検討</p>	<p>○<u>現状と課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口10万人当たりの病院病床数は第2位、医師数は第5位(政令市比較)、24時間体制の小児救急病院が4病院あるなど、医療資源が豊富な状況である。一方で県地域医療構想に定める必要病床数と比較すると急性期病床が約1,000床過剰との指摘もある。 ・令和5年市民意識調査では、医療・衛生管理体制の充実に関する市政評価は第3位、市政要望は第5位となっており、市民ニーズは高い。 ・特定診療科(小児科等)の医師の減少傾向や、医師の働き方改革(時間外労働の規制)の影響で医療資源が減少する可能性があること、人口減少等の進展により医療需要は減少見込みであること、市立医療センターの老朽化が進展していることなどがある。 <p>○<u>「市全体の医療のあり方」「市が担うべき政策医療」「市の医療機関のあり方」などについて検討する必要があることから、学識経験者、医療関係者などによる第三者委員会を立ち上げる。</u></p>

局区X方針について(B・Cレベルの課題で一定の進捗があったもの)

局区	課題番号	課題の概要	取組みの進捗状況(令和6年10月30日時点)
環境	B(4)	<u>周辺自治体との連携による一般廃棄物の広域処理(ごみ処理事業)</u> ・圏域内の市町と連携して、ごみの減量リサイクルを推進	<u>○一般廃棄物を関係市町から受け入れている。</u> ・(1)本市のごみ処理に支障が生じるものではないこと、 (2)本市と同等以上のリサイクル、減量努力を行うこと、 (3)本市と一体的な地域整備に取り組む信義、信頼関係が成り立っている の「受入三原則」にもとづき受け入れている。 <u>○新日明工場の稼働および新門司工場の延命化に伴い、令和7年度より北九州市のごみ処理コストが増加するため、他都市からの一般廃棄物(可燃ごみ)の処理料金を改定する。(改定時期:令和7年4月1日)</u>

局区X方針について(B・Cレベルの課題で一定の進捗があったもの)

局区	課題番号	課題の概要	取組みの進捗状況(令和6年10月30日時点)
産業 経済	C(1)	<p><u>渡船事業(若戸渡船)の経営改善</u></p> <p>・収入確保、経費削減策の検討等について、専門家や地元関係者等による第3者委員会を立ち上げ、検討する。</p>	<p><u>○現状と課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗船人数は昭和36年の1,061万人をピークに減少傾向が続き、令和5年度は、43万人(内、約9万人、20%が自転車利用)となっている。 ・運賃改定(値上げ)は、平成17年に50円→100円としたのが最後で、他の公共交通機関と比べ、長期間見直しが行われていない。 ・毎年度約1億5,000万円の赤字を計上しているほか、「くき丸」が更新時期を迎えている(更新費用約1億円)。 ・平成16年に設置した「渡船事業経営改善検討委員会」の提言に基づき、運航業務の民間委託化等を実施し、一定の成果を得たものの、利用者数(収入)減少は続いている。 <p><u>○持続可能な渡船事業について検討する必要があることから、収支改善に向けて専門家や地元関係者による第3者委員会を立ち上げる。</u></p>

局区X方針について(B・Cレベルの課題で一定の進捗があったもの)

局区	課題番号	課題の概要	取組みの進捗状況(令和6年10月30日時点)
上下水道	B(1) B(2) C(1)	<p>持続可能な上下水道事業の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入減少と増大する施設更新需要の対応 ・地震等の災害に強い施設の構築 ・適正な事業量の検討と必要な財源の確保 ・ベテラン職員の退職に伴う技術・ノウハウの継承への取り組み ・民間事業者等との連携による効率的運営の推進 	<p>○現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に水道管を更新してきたが、近年の物価高騰等に伴い、市が定めた更新基準年数(40～95年)を超えた管の更新が遅れつつある。 ・県内で一番安い料金体系を維持しながら、事業統合や広域化による収入の確保、施設規模や組織の見直し、民間活用による費用の削減など、様々な経営改善に取り組んできたが、水需要の低下に伴い料金収入及び累積資金剰余が減少している。 ・令和3年に策定した上下水道事業基本計画においても、令和9年度に資金不足を見込んでいる。 <p>○能登半島地震を踏まえた上下水道施設の強靱化への対応が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能登半島地震の状況を踏まえ、施設の耐震化(強靱化)が求められているが、他都市と比べ取り組みは遅れている。 <p>○これらの課題を踏まえ、次期中期計画(令和8～12年度)の策定に向け、専門的な視点や利用者からの意見を取り入れる市の付属機関となる審議会を設置し、必要な財源の確保や適正な事業量について、検討を進める予定である。</p>

局区X方針について(B・Cレベルの課題で一定の進捗があったもの)

局区	課題番号	課題の概要	取組みの進捗状況(令和6年10月30日時点)
交通	B(2)	<p>財務状況の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部有識者等による検討会を立ち上げ、意見等を聴取 上記検討会の意見を踏まえ、R7年度から順次取組を実施 R8年度の収支均衡(黒字化)を目指す 	<p>○現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 運転者不足(令和元年度163人→令和6年度141人、60歳以上の運転者が49%) 輸送人員数・乗合収入は減少傾向、単年度資金収支は3億円程度赤字。 一方、貸切バスの「実働一日一車当りの運送収益」は全国トップ。補助金などの営業外収益への依存度は相対的に低い。 営業損益の赤字幅は、他の公営バス事業者の中では相対的に小さい(営業損益率 北九州市:▲24%、全事業者平均:▲61%) <p>○これまでも厳しい経営状況を踏まえ、経営改善を継続的に実施してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 効率的・効果的なダイヤ編成や職員の会計年度任用職員化だけでなく、貸切・受託事業の営業強化など様々な経営改善を実施。 近年では、貸切料金の値上げや車両台数の適正化等を実施し、運転者確保のため、処遇改善(初任給の引き上げや給与水準の底上げ)を実施。 <p>○「市民の生活の足を守る」という交通局の使命を果たし続けるため、今年度、市営バス事業あり方・役割検討会議で「持続可能な交通事業の構築に向けたアップデート」に向けて議論をしていく。</p>